



## 第7戦で嵯峨宏紀、千代勝正が揃って スタート直後にトップへ躍り出る! 嵯峨は8戦連続入賞、千代は第7戦で2位に

アチーブメント全日本F3選手権第7戦&第8戦(第4ラウンド)富士スピードウェイ(4.563km)



2010年、ル・ボーセモータースポーツが挑むレースカテゴリーのひとつ、全日本F3選手権の第4ラウンド／第7戦&第8戦が7月17日(土)、18日(日)の両日、静岡県・富士スピードウェイで開催された。  
擁するドライバーは、Cクラスで「DENSO・ルポーセF308」を駆る嵯峨宏紀。そしてNクラスで「BPダイシールポーセF305」を駆る千代勝正である。  
富士でのレースは2ラウンド連続で、インターバルは1か月あまり。前回得られたデータをもとに、マシンには新たな改良が施されている。もちろん、ドライバーにも激戦の中でつかんだ感覚は、深く残っているはず。ふたりの力走に期待がかかった。

### 予選

7月17日(土) 天候/コース状況:曇り/ドライ

チームは最高速を稼ぐべく、フリクションロスを抑え、大幅に改良を施し富士決戦に臨む。その効果は絶大で、金曜日の練習走行では周回を重ねること嵯峨、千代とも着実にタイムを短縮し続ける。予選の行われた土曜日は、ちょうど梅雨明け宣言が出されたこともあり、天候に恵まれこそしたが、その一方で猛暑をもライバルとしなくてはならなかった。

路面温度の上昇によるリヤタイヤの熱だれを無くす対策として、リヤよりもフロントのタイヤに熱を加えていく。丁寧なウォームアップが功を奏し、嵯峨は3周目に1分36秒284をマークして3番手に。そして、早めに走行を終了させる。

一方、千代は3周目にターゲットとなる38秒台に入れるが、まだ伸び幅はあると判断。そのままアタックを続けて5周目に38秒316にまで短縮し、Nクラス3番手のグリッドを獲得する。



続く第8戦の予選では、嵯峨に1回目予選で使用したタイヤを装着。決勝でニュータイヤを履かせ、より有利にレースを戦うための作戦である。ユーズドタイヤでもタイヤの落ち込みが少ないことは練習走行で確認済。しかし、路面温度の上昇が1回目より思いのほか大きく、2周目に記録した37秒653がベストで、5番手からのスタートとなった。

そして、セオリーどおりニュータイヤを装着した千代は、1回目同様コンスタントにタイムを縮めていく。4周目に38秒674をマーク、Nクラス5番手で決勝に挑むこととなった。

### 決勝レース第7戦

7月17日(土) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

約5時間のインターバルで、すっかり天候は変わり、予選の頃はまだ上空に雲も多く見られたが、決勝レース第7戦のスタート進行時はすっきりと青空が広がるほどとなっていた。気温は34度に、路面温度は51度にまで上昇。今年いちばん過酷な条件に。内圧などをしっかり調整して、2台のマシンをグリッドに送り込む。ちなみに嵯峨が装着したのは、温存しておいたニュータイヤ。3番手から挑むレースに勝負をかけることとなった。

この判断に嵯峨がスタートで応えた。絶妙のダッシュを決めて1、2番手の国本、スズキに迫る。そして、2台がけん制し合う隙を突き、インを刺してトップに立った。

3周目のストレートではスリップストリームに入られるが1コーナーのブレーキング競争でポジションを死守。しかし、続く2コーナーで失速した間にコココーラコーナーでクロスラインを奪われ先行を許すことに。その後、5周にわたり三つ巴になって激しい争いが展開されるも、8周目に接触しコースオフ。リヤのサスペンションを傷めてしまう。コースへ復帰し思うようにペースを上げられなくなったが、ゴールまでマシンを必死に導き、5位でゴールすることとなった。

そして、千代もまた絶妙のスタートを切り、1コーナーの混乱のなかでも2台をかわしトップに躍り出る。序盤レースをリードしトップをキープするも、9周目のストレートで佐藤にスリップストリームを使われ先行を許す。それでも残り周回数を着実に重ね、2位でフィニッシュして今季4回目となる表彰台に上がることとなった。



### 決勝レース第8戦

7月18日(日) 天候/コース状況:曇り/ドライ

決勝レース第7戦のときと比べれば、気温こそ下がったものの、日差しの強さだけは一向に衰えず、第8戦もまた高温の路面の上での戦いになった。ここで嵯峨は2回の予選を走ったタイヤを装着するため、厳しい戦いとなるのは承知の上。しかし、試練をどう乗り越え、今後につなげてくれるか。そんな期待も込められたレースとなった。

その嵯峨はスタートでこそポジションキープとなったが、先行する車両にぴったり食らいついてコーナーをひとつひとつクリアしていく。そして、ダンロップコーナーでスズキのインを刺して4番手とするも、ストレートで伸びずポジションを戻す。しかし、ひとつでも前に、という闘志は失わず、終盤にはタイヤも限界に近づいていたが、それでも39秒台でコンスタントに周回。走りをもとめて5位を獲得する。



千代は、スタートでひとつ順位を上げ、オープニングラップのコカコーラコーナーで佐藤を抜いて、3番手へとジャンプアップ。表彰台の2戦連続獲得に向けて懸命の走りを重ねていたが、16周目のストレートで佐藤が前に。その後、佐々木と激しいバトルを繰り広げ、冷静なガードで逆転を許さず、4位でフィニッシュすることとなった。

今回のレースは、ツインリンクもてぎが舞台。ホームコースで態勢を立て直し、シリーズ後半戦の巻き返しを狙う。

Driver  
**嵯峨宏紀**  
Koki SAGA  
COMMENT

第7戦では決勝に向けニュータイヤを温存して勝負しましたが、バトル中の接触により順位を落としてしまいました。確実に高ポイントをとるための作戦でしたが、レース展開でトップに立って、そのポジションを死守するための冷静な判断が出来ていなかったように思います。第8戦ではマシンセットについて違う可能性を探りながらのレースをしましたが、思いのほかタイムを上げることができませんでした。次戦はチームのホームコースなのでここから巻き返していきます。

Driver  
**千代勝正**  
Katsumasa CHIYO  
COMMENT

前回のレース後にチームと入念にミーティングを行い、セッティングが特殊な富士に合わせて大幅に改良をしてくれたおかげで、金曜日からもとても良い感触をつかむことができました。その結果、第7戦では2位でゴールすることができ、さらに改良を加えた第8戦では4位に留まりましたが、収穫の多い今後に繋がるレースになったと思います。これからも勝利に貪欲になって、チャンピオンシップを戦っていきたくと思います。

チーム監督  
**坪松唯夫**  
Tadao TSUBOMATSU  
COMMENT

今回の富士では、確実にポイント稼ぐことが最大の狙いだった。嵯峨は2回の予選で1セットの新品タイヤを温存し、土曜日の第一レースに賭ける作戦にした。スタートではドライバーの好判断でトップに浮上ってきたが、バトルを繰返しているうちにタイヤが厳しくなり離されてしまった。千代は課題であったストレートでのスピード不足も解消され思い切りの良いレースができた。今後夏本番に向けたレースではタイヤマネジメントが大切になるし、それによって結果も変わってくる。次戦の茂木では巻き返しを図るべくチーム総力で臨む。

### 第7戦 決勝

Cクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	1	国本 雄資	PETRONAS TEAM TOM' S	1
2	12	関口 雄飛	ThreeBond Racing	5
3	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM' S	2
4	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING	4
5	62	嵯峨 宏紀	DENSO Team Le Beausset	3
Nクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	23	佐藤 公哉	TEAM NOVA	2
2	63	千代 勝正	DENSO Team Le Beausset	3
3	8	小林 崇志	HFDP RACING	4
4	20	Gary Thompson	ACHIEVEMENT by KCMG	6
5	37	蒲生 尚弥	TOM' S SPIRIT	1

### 第8戦 決勝

Cクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	1	国本 雄資	PETRONAS TEAM TOM' S	1
2	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM' S	2
3	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING	4
4	12	関口 雄飛	ThreeBond Racing	3
5	62	嵯峨 宏紀	DENSO Team Le Beausset	5
Nクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	37	蒲生 尚弥	TOM' S SPIRIT	1
2	8	小林 崇志	HFDP RACING	3
3	23	佐藤 公哉	TEAM NOVA	2
4	63	千代 勝正	DENSO Team Le Beausset	5
5	22	佐々木 大樹	TEAM NOVA	4

### シリーズランキング

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	1	国本 雄資	95
2	12	関口 雄飛	39
3	36	Rafael Suzuki	37
4	2	Alexandre Inperatori	32
5	62	嵯峨 宏紀	28
Nクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	8	小林 崇志	78
2	37	蒲生 尚弥	43
3	63	千代 勝正	37
4	23	佐藤 公哉	30
5	20	Gary Thompson	15

